

〔目的〕独特の染織技術に支えられた大島紬は、和服としての声価は高いが近年和服ばなれの傾向が続き、減産の傾向が見られる。優れた織物である大島紬の特徴を生かして、これを優雅なシルエットをもつ洋服とすることが可能であることを示すべく試みた。

〔方法〕デザインを立体裁断でパターン化したものと、従来の平面製図でパターン化したものとをまずトアールで比較した。次いで、実際に大島紬を試料とし立体裁断により作品を製作し、洋服としてのシルエット及び布地の物性等から検討を加えた。

〔結果〕大島紬は、いせこみ、伸縮等技術的な面で洋服素材としての制約があるが、従来の平面裁断ではなく立体裁断を活用することにより、これらの難点を解決し、着物の延長線ではない洋服としての確実な美しいシルエットを作ることができる。また、高価な布を効率よく利用できることも今後大島紬を洋服化するにあたって重要な要素であると考えられる。

さらに、大島紬が洋服として利用される場合、軽くしわになりにくいという特徴は洋服素材に適しており、耐久性についても一般の絹織洋服生地と比較して特に問題はないと考えられる。